



（Ⅰ）次世代の競技者の育成 ≪施策 2Ⅰ≫

主な取組・事業実施状況	○ジュニアアスリート育成・女性アスリート支援・競技団体等活性化事業の実施 ＜重点事業 17＞ ・県内のジュニア選手（小・中学生）を対象に、各競技団体の「競技者育成プログラム」による遠征合宿の活動経費を 24 競技団体に助成 ・九州のジュニアアスリートを対象に中央競技団体（3 競技団体）と連携し、育成プログラムを実施 ・オリンピック等国際大会への出場可能性が高い選手を国際大会で活躍するトップアスリートへと育成するため、14 競技団体を通して遠征経費を助成 ・県内の女性アスリートを対象に、遠征合宿及び全国大会等への出場経費を 4 競技団体に助成 ・映像分析ソフト等の ICT を活用した競技者育成システム構築事業を 29 競技団体が実施 ○競技スポーツ振興事業の実施 ・県内の優れた指導者による指導法を競技団体で共有する取組を実施した 13 競技団体に、指導者の活動経費を助成 ○県立体育・スポーツ施設の整備と活用促進（5 施設）
成果	○ジュニアアスリートの育成プログラムによる成果がでています。 （年代別日本代表選手等にフェンシング競技で 1 名、ホッケー競技で 2 名、アーチェリー競技で 3 名が選出。） ○ジュニアアスリートの発掘から始まる一貫指導システムの重要性について、本県事業を通じて各競技団体と共有することができました。 ○タレント発掘事業修了生の中から、パリオリンピックに 8 名出場し、その内 2 名がフェンシング女子サーブル団体に銅メダルを獲得し、初のメダリストが誕生しました。
今後の課題・対応	●「中長期の強化戦略プラン」のブラッシュアップ ・各競技団体の実態に応じたターゲットアスリート^{注1)}の発掘・育成や、持続可能な組織づくりの確立等を目的とした「中長期の強化戦略プラン」の見直しの支援を行い、競技力向上へつなげます。 ●女性アスリート及び女性アスリートの指導者育成 ・本県の女性アスリートの競技力向上を図るため、遠征合宿などの強化事業を継続的に実施します。

指標	現状値（R6 年度）	目標値	達成状況
【競技スポーツの振興】 国民スポーツ大会^{注2)}における男女総合成績順位	13 位	8 位 (毎年度)	△
【女性アスリートの育成】 国民スポーツ大会における女子総合成績順位	10 位	8 位 (毎年度)	○

〔測定手段〕国民体育大会の男女総合成績(天皇杯)及び女子総合成績(皇后杯)

注1) ターゲットアスリート:各競技団体が選出する次世代アスリートのこと

注2) R6 から「国民体育大会」が「国民スポーツ大会」へ名称変更